

研究主題「キャリア教育の視点に立った夢や希望をはぐくむ道德の時間の指導 の工夫ーロールレタリング（役割交換書簡法）による試みを通してー」

東京都教職員研修センター研究部研究課
八王子市立第四小学校 主幹 徳丸幸夫

I 研究のねらい

東京都教育ビジョンでは、取り組みの方向9に「系統的なキャリア教育で、将来の目的意識や学ぶ意欲を育てる」ことを示している。

小学校の道德教育では、学習指導要領の中で、道德の時間の指導における基本方針の第1節の(3)に「児童が自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもてるようにする」とあることから、キャリア教育のねらいと道德教育のねらいは関連が深いと考える。

そこで、道德教育における勤労観や職業観の育成に関する指導を行う際、キャリア教育のねらいに関連付け、小学生の発達段階にふさわしい目標を設定し、指導方法を工夫することで、児童は道德教育の目標を達成させるとともにキャリア教育にかかわる能力も高め、より望ましい勤労観や職業観を培っていくと考え、本研究主題を設定した。

また、本研究における指導方法の工夫として、ロールレタリングの活用が効果的であると見え、試みることにし、以下の研究仮説のもとに研究を進めることとした。

【研究仮説】

本研究では研究仮説を、「道德の時間の勤労観・職業観を育てる授業でキャリア教育の視点に立った資料を選択し、将来の自分と対話をする活動を積み重ねていけば、将来への目的意識（夢や希望）をもち、努力しようとする意欲が高まるであろう。」と設定した。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 学習指導要領、各種答申、先行研究の分析から

道德教育とキャリア教育とは、児童に社会性を伴った価値観の育成を目的とする点で共通性があることが分かった。

そこで、さらに関連を具体化するためにキャリア教育の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所）と道德の学習指導要領を関連付け、キャリア教育のプログラム例の内容と道德の内容項目との関連表を作成した。（表1：一部抜粋）

(2) ロールレタリングについて

心理学から始まったロールレタリングは、役割交換書簡法とも呼ばれている。相手に架空の手紙を書き、次に手紙を受け取った相手の立場で自分宛に手紙を書く方法のことである。

本研究では、その手法を活用し、将来の自分とのロールレタリングをすることにした。

児童は憧れの職業についての将来の自分へ手紙を書くことで、漠然とした夢や希望を具体的にイメージしていく。また、将来の自分の立場になりきって今の自分に手紙を書くことは、今の自分を客観的に見つめ直し、夢や希望の実現のために努力をする意欲を抱かせると考えた。

(表1)

小学校	高学年
キャリア教育 職業的発達を促すために期待される具体的な能力・態度	学習指導要領 道德の内容項目
・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。	1-(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

2 調査研究

(1) 調査研究のねらい（対象：都内小学校5，6年生256名）

本調査は、児童の将来にかかわる意識を調査・分析した。その結果から、夢や希望をはぐくむための指導の工夫を考えるようにした。なお、アンケート(23項目)については、キャリア教育の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所）の夢や希望の育成と関連の深い「将来設計能力」の記述を基に実施した。

(2) 結果の考察

pearson χ^2 検定の結果、「将来の夢や希望をもっている」と「憧れる職業がある」は関係があった。 $(\chi^2(1, N=256) = 10.638, p < .01)$ また、「将来の夢や希望をもっている」と「自分の将来を考えることは大切であると思う」も関係があった。 $(\chi^2(1, N=256) = 48.098, p < .01)$

このことから、夢や希望をはぐくむ指導の工夫として、職業について考えることや自分の将来を考える場を意図的に指導計画に設定していくこととした。

3 指導の工夫の検討

(1) キャリア教育の視点に立った夢や希望をはぐくむ道德の時間の指導の工夫

- ① **提案1** 【指導計画の工夫】道德の内容項目4-(4)勤労・奉仕と1-(2)希望・努力との関連を図った道德の時間の指導計画を工夫する。
- ② **提案2** 【教材の工夫】道德4-(4)では職業にかかわる内容の資料を選択し、道德1-(2)では、児童自らが創る資料を活用するなど、教材を工夫する。

(2) ロールレタリングの活用

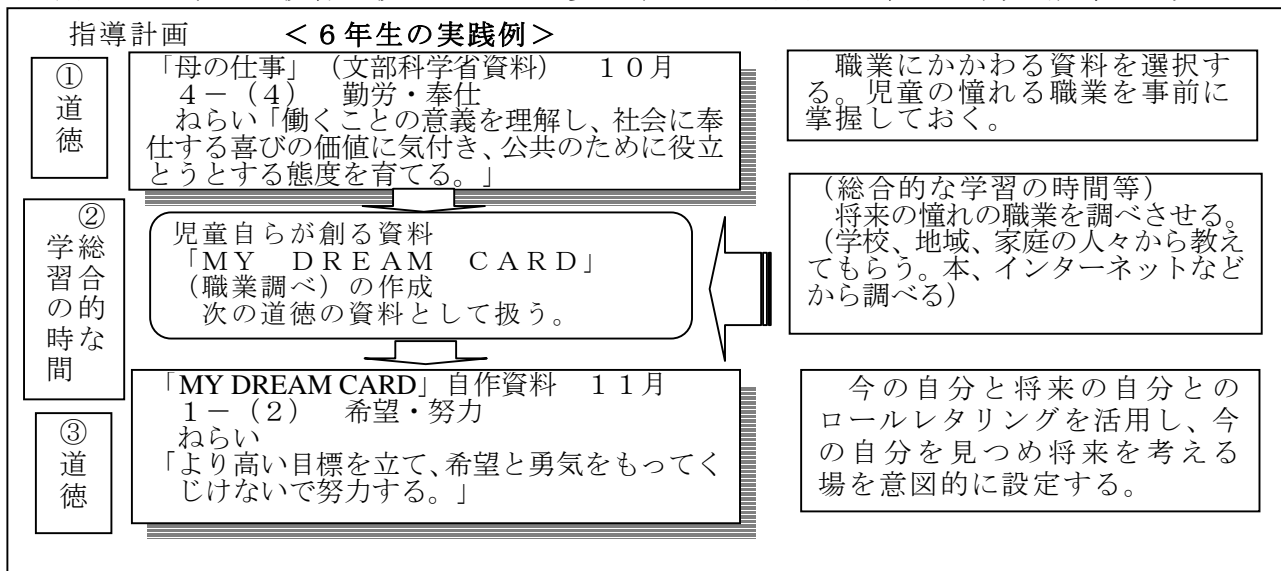
- 提案3** 【自分を見つめ将来を考える場の設定】今の自分と将来の自分とのロールレタリングを通して、自分を見つめ将来を考える場を設定する。

4 実践研究（指導の実際）

(1) 指導計画の工夫

- 提案1** 道德の内容項目4-(4)勤労・奉仕と1-(2)希望・努力との関連を図った道德の時間の指導計画を工夫する。

<図1>キャリア教育の視点に立った夢や希望をはぐくむ道德の時間の指導の工夫



前記〈図 1〉の構想に基づいて、キャリア教育の視点に立った夢や希望をはぐくむ道徳の時間を工夫した。児童が職業を選ぶ理由は、自分の興味やお金儲けなどに偏ってしまう場合がある。そこで、①の道徳の授業において、「働くことの意義」である働く喜びや誇りといった社会的な価値観の大切さに気付かせることを重視した。

導入では、事前に児童にアンケートをとり、将来の夢である「憧れの職業」を把握しておく。展開では、主人公の心の変容を学び、自己内省したり、これからのことを考えさせたりする。終末では、人々の様子に触れさせ、自分も将来、公共のために役立とうとする意欲をはぐくむ。

その上で、②総合的な学習の時間で「憧れの職業」について調べ学習し、漠然とした職業についてのイメージを具体化させていく。夢や希望である「憧れの職業」について調べたことを、次時の道徳の時間までに、「MY DREAM CARD」に整理させる。

そして、③の道徳では、今の自分と憧れの職業についての将来の自分の立場とでロールレタリングをする。将来の自分になって今の自分へのアドバイスなどを考えさせ、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」意欲を抱かせる。

(2) 教材の工夫

提案 2

道徳 4 - (4) では職業にかかわる内容の資料を選択し、道徳 1 - (2) では、児童自らが創る資料 (MY DREAM CARD) を活用するなど、教材を工夫する。

小学校学習指導要領解説の道徳編「資料の開発と活用の創意工夫」では、「児童自らが創ることができる資料など、柔軟な発想に立って資料を広く求める姿勢をもつようにする。」とある。

このカードは、前時①道徳の事後指導として、児童自らが個々に「憧れの職業」について調べ、整理したものである。ゆえに、本時のねらいである「夢や希望」に向かって努力しようとする心情を高める資料としても効果が期待できる。「仕事の内容」、「楽しいところ」、「苦勞するところ」、そして、「人々のためになるところ」を意識してまとめさせる。

したがって、自作資料は、キャリア教育の視点である望ましい勤労観・職業観を育成する上でも有効な資料であり、将来の自分をイメージする資料ともなる。

(3) ロールレタリングの活用

提案 3

今の自分と将来の自分とのロールレタリングを活用し、今の自分を見つめ将来を考える場を意図的に設定する。

記入は、最初に、将来の自分への励ましやこれから自分が頑張ることを書き、次に、将来の自分になりきって仕事の喜びや苦勞、今の自分へのアドバイスなどを書くようにさせる。

そして、「MY DREAM CARD」を活用することで、将来の自分をイメージし書きやすくする。

また、将来の姿を文章化することで、夢や希望をより明確にはぐくんでいくことができる。

(時間例：往復書簡をそれぞれ 10 分ずつ。)



ロールレタリングを指導する際、下記の事項を配慮した。

- ・どのように書いたらよいか分かるように、学習カードに補助説明を入れる。
- ・活動の見通しをもたせるために、書く時間を知らせるとともに、時間を確保する。
- ・手紙をもらう相手（将来の自分）の気持ちになって書くように伝える。
- ・書いた内容は、それぞれの児童の心情を表現したものであるため、取り扱いに配慮する。

Ⅲ 研究の結果と考察（記録から見る児童の変容）

1 道徳の授業後の児童の主な感想から

	問 1 道徳の授業を受けるまで、あなたは職業を選ぶ理由をどのように考えていましたか。	問 2 道徳の授業を受けて職業に対して、何か考えが変わったり、気が付いたことがあったりしたことがあったら教えてください。	問 3 憧れる職業をもち、今、しなければならぬことを考えることができましたか。
A	職業を選ぶって何だろうと考えてもわからない。大人になるまでに必要なのか。それとも憧れだけなのかと私は思いました。	私は職業について考えたことは、一度や二度はあるけど、本当になりたいと思う職業までは考えたことはありませんでした。ちゃんと考えてみると、憧れている職業が一人一人やっぱりあるんだなと思いました。	今やっと憧れる職業をもって、それに近づくために今がんばろうと思いました。
B	お金、やりがい、憧れ、親のやっているもの。	人々の喜びのための職業がたくさんあること。ヘルパー、俳優、芸人、歌人など。	今、目の前にある自分のできることをする。
C	私は今まで楽で簡単かどうかということを選んでいました。	道徳の授業を受けてから、父の職業に対してすごく大変そうで継ぎたくないと考えていたけど、いろいろなことが人の役に立つんだとわかりました。	はい。（住む人の立場になって、家の設計をできるようにしたい。）

本授業において、児童の具体的な感想を得ることができ、仮説を検証することができた。

2 教育活動におけるロールレタリングの効果

※自己を見つめて、表現することができたことから、ロールレタリングの有効性が見られる。
 また、自分なりに将来への目的意識（夢や希望）をもち、努力しようとする意欲が見られる。

作文とロールレタリングとは、全然違うと思います。作文はできごとや思ったことを書いているけど、ロールレタリングは「自分から自分へ」なので、将来の夢のことや大きくなったときのためのことなどを書きます。自分の将来について、目標ができました。すっきりしました。【6年Aさんの感想より】

この感想を例に、分析と考察を示し、以下の効果でまとめる。

まず第一に、自己内対話を通し、夢のある将来への契機となる自己決定を促すことができる。

そして、学習を積み重ねていくことで、自分をより客観視できるようになる。第三者の立場で自分の将来の夢の妥当性を評価・判断でき、これまでもっていた自己のイメージが客観的、妥当的、事実評価的なイメージへと変化する。

また、往復書簡が記録として残るので自分の成長や変化を確認でき、成長や変化のものさしになる。児童の発言には、「何年かしたら何を書いたかもう一度読みたい。」との声もあった。

Ⅳ 研究の成果と今後の課題

道徳の勤労観・職業観を育てる授業でキャリア教育の視点に立って教材を選択したことにより、夢や希望に「人々のため」という社会的な価値観が身に付き、職業選択の意識が変容した。

そして、将来の自分と対話をする活動は、自分をよく見つめる機会となり、自分の夢や希望に向けて、今できることを努力しようとする意欲が高まった。検証授業の事前・事後において「憧れの職業につくために、今しなければならぬことを考える」児童の意識は、t検定において平均値に有意な差が見られた。（ $t(66)=3.263, p<.01$ ）

今後は、中学校で実施される職場体験につながるように、小学校の早期の段階から道徳の時間を要にキャリア教育の視点に立った「夢や希望をはぐくむ教育計画」を作成していきたい。